

令和6年12月1日号

まちなみ通信 No.67

～ 保存事業のご紹介 ～



「伝建スタンプリヤー」
伝建制度50周年記念事業

廿日市市宮島町のスタンプ

- 保存事業について -

皆さんも島内を歩かれる際にご覧になられたかもしれませんが、今年度は、市の補助事業を活用し、来年3月の完成に向けて、2棟の伝統的建造物を修理しています。今号では、2棟の工事現場の様子などを少しご紹介いたします。

- 壁は土塗り壁に -

まず、町家通りに面する1棟目の町家は、長年、空き家となっていました。このたびの保存事業をきっかけに大規模な修理を実施することとなりました。

外観は金属製の波板に覆われていたため、一見、伝統的建造物に見えない建物でしたが、内部からは明治期の建築当初の柱と梁を確認することができていました。

長年の風雨により部材はかなり痛んでいましたが、昔の部材を可能な限り残しながらも、少しでも地震対策を行うため、補強の梁や柱を設置しています。

土壁も相当痛んでいたため、土を全部落とし、下地の竹小舞(竹を縦横に編んだもの)を補修したうえで、あらためて土を塗り直しています。



全国的にも建設業に携わる職人不足が嘆かれています。土壁を塗る左官職人の減少は顕著で、宮島をはじめとする全国の保存事業

を支える技術継承が課題となっています。



土塗りと下地の竹小舞

本市では、「伝建宮島工務店の会」が中心となって、地元工業高校を巻き込みながら、左官業の普及を後押ししています。

- 雨水の浸入を阻止 -

2棟目は、中江筋に面する町家です。こちらも全面的に修理を実施するもので、1階部分の屋根工事が終わり、これから内装と2階屋根に取りかかるところです。

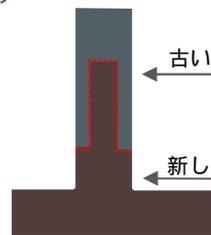
雨水の侵入が心配な箇所があったため、特別史跡上の規制を満足しつつ、一部の基礎を鉄筋コンクリート造にしています。伝統的建造物であっても、現代の生活様式にあった修理を行うこともできます。

しかし、古い部材を最大限残していくことが修理の基本となります。雨水により腐ってしまった柱の下部については、腐った部分だけを切り取り、新しい柱を継ぎ足し、少しでも古い部材を保存する工事を行っています。



古い柱：黒っぽい色

新しい柱：茶っぽい色



～ 伝統的建造物の紹介 No.2 《旧佐々家》 ～

町家通り北端の交差点に南面して建つ間口約3間、奥行約8間半、切妻造平入、2階建、棧瓦葺の近代宮島における典型的な町家です。

平行四辺形に近い変形した敷地に合わせるため、押入等でゆがみを吸収する高度な大工技術が用いられ、壁の仕上げや建具などの質も高い近代和風建築となっています。また、奥の坪庭に面したザシキには炉が切られ、茶の湯を楽しむことができます。2階座敷の欄間には、透かし彫りの亀や梅の文字が入り、細かい装飾が施されています。さらに、坪庭を挟んで通り庭側に台所、反対側に風呂と便所へ行く渡り廊下を設ける点も宮島の典型的な住居作法による造りです。

現在は、広島工業大学 地域環境宮島学習センター「宮島こもん」として利用されています。



外観(南東側から)



2階座敷(欄間に透かし彫り)



2階床の間



鼠(ねずみ)漆喰



装飾が施された腕木



大学の活動拠点として活用

伝建制度創設 50 周年記念事業 「伝建デジタル de スタンプラリー」の開催について

伝建地区制度創設 50 周年を記念して、デジタルスタンプラリーが全国の伝建地区 129 か所で開催中です。各地の伝建地区に多くの人に来訪してもらい、周遊促進などを目的としています。

「廿日市市宮島町伝建地区」もスタンプラリー事業の舞台の1つとなっており、宮島歴史民俗資料館を中心に半径 500m の範囲でスタンプが獲得できます。全国の伝建地区で 5 個以上スタンプを集めると B 賞、10 個以上で A 賞に応募できます。ぜひ以下の QR コードから参加登録していただき、全国の伝建地区を巡りデジタルスタンプを集めてみてください！



参加登録用 URL

宮島で所有されている建物について、お困りごとはありませんか？

宮島に建物をお持ちの方で、何かお困りごとがあれば、ぜひご相談ください。

皆さんのお役に立てるよう、問題解決に向けて一緒に考えます。もちろん秘密厳守です。

まちなみ通信 No.67 (令和 6 年 1 月 2 月 1 日) 発行

廿日市市 経営企画部 宮島企画調整課 歴史まちなみ保存活用係

(0829)30-9119 FAX(0829)32-1059